

2020年9月の金融経済概況のポイント

■景気の基調判断

- 今月の基調判断は、「新型コロナウイルス感染症の影響から引き続き厳しい状態にあるが、経済活動が徐々に再開するもとの、持ち直しつつある」と、前回の「悪化した後、新型コロナウイルス感染症の影響が引き続きみられるもとの、厳しい状態にある」から上方修正しました。上方修正は、2019年2月以来、1年7か月振りです。
- 需要項目ごとの判断でも、個人消費について、「低い水準となっているが、徐々に持ち直している」、観光についても、「引き続き厳しい状況にあるが、徐々に持ち直している」と上方修正しました。公共投資については、「高水準となっている」と表現を変更しましたが、判断としては、前回から横這いです。住宅投資については、変更はありません。
- 雇用面についても、変更はありません。金融機関の貸出の面についても、前回と同じ判断で、預金、貸出とも前年より増加しています。
- 本日公表した道北地域の日銀短観（9月調査）は、全産業の業況判断DIが▲5（6月▲14、▲は「悪い」超過）と、3期振りに改善しました。▲5は2013年3月（▲9）以来の水準です。製商品・サービス需給判断は、前回、供給超過を大きく拡大した後、供給超過を縮小（6月▲30→9月▲19、▲は供給超過）しましたが、製造業、非製造業とも需給バランスは、悪化した状態にあります。これを受けて、生産・営業用設備判断（6月+5→9月+3、▲は不足超過）は、引き続き、過剰超過（+3は2013年6月<+6>以来の水準）となっています。雇用人員判断（6月▲34→9月▲36、▲は不足超過）は、前々回、前回と不足超過の縮小が続きましたが、今回は若干拡大しました。

■個人消費の動向

- 大型店売上高は、7月、8月ともに前年を上回り、7か月連続で前年を上回りました。もっとも、外出自粛の影響が和らぐ中で、いわゆる巣ごもり需要は落ちついてきており、前年比増加幅は縮小しています。衣料品の販売が引き続き低調なほか、日用品や食料品の需要も一頃に比べ、増勢が鈍化しています。一方、家電販売は、特別定額給付金支給の効果は一段落しましたが、在宅時間の増加やテレワークの浸透に伴い、引き続き、白物やテレビのほか、パソコンの販売に持ち直しの動きがみられたところです。
- 7月、8月の新車登録台数は、除く軽、合計とも、前年を下回りました。軽自動車は、7月は前年を若干上回りましたが、8月は前年を下回り、この2か月を合算してみると前年を下回っています。合計は、昨年10月以降、11か月連続のマイナスですが、一頃に比べれば、前年比減少幅は縮小しています。自動車ディーラーの店頭では、外出自粛が和らぐ中で客足が戻りつつあり、新車投入や販売促進策の効果もあって、水準はまだ低めですが販売は徐々に持ち直しています。

■観光の動向

- 道北4空港（旭川、稚内、女満別、紋別）の旅客数をみると、7月、8月ともに新型コロナウイルス感染症の影響が引き続きみられるもとので、全ての空港で前年を大きく下回り、全体でも前年を大きく下回りました。7か月連続の前年割れです。もっとも、国内旅行需要の緩やかな回復を受け、一頃に比べれば、前年比減少幅は縮小しています。この間、旭川空港の国際線の就航便数は、7月、8月ともにゼロで、これにより6か月連続で定期便、国際チャーター便ともにゼロとなりました。
- ホテル・旅館宿泊客数は、7月、8月とも前年比大幅な減少となりましたが、どうみん割やGoToトラベル事業の効果から、道内客を中心に持ち

直しの動きがみられました。旭川市内のホテル客室稼働率も、7月、8月とも前年を大きく下回りましたが、5月を底に、徐々に持ち直しています。

- 各地観光施設の入込みは、7月、8月は、ウェイトの大きい旭山動物園、層雲峡地区、ウトロ温泉、博物館網走監獄、利尻・礼文フェリーとも前年を大きく下回ったことから、合計でも前年を大きく下回りました。ただ、いずれの施設も、一頃に比べれば、入込客数は徐々に回復しており、前年比減少幅は縮小しています。

■公共投資の動向

- 上川、宗谷、オホーツクの3総合振興局における公共工事請負金額は、7月は上川、宗谷、オホーツクの全てで前年を大きく下回りました。8月は宗谷で前年を上回りましたが、上川、オホーツクが前年を下回ったことから、全体でも前年を下回りました。2020年4月以降、8月までの累計では、宗谷、オホーツクが前年を大きく上回ったほか、上川も前年を上回ったことから、全体でも前年を上回っています。

■住宅着工

- 新設住宅着工戸数は、6月、分譲が前年を上回ったものの、持家、貸家が前年を下回ったことから、全体でも前年を多少下回りました。7月は持家が前年を大きく下回ったものの、貸家、分譲が前年を大きく上回ったことから、全体では前年を若干上回りました。

■雇用

- 雇用状況は、弱めの動きがみられています。有効求人倍率は、6月、7月とも旭川、稚内、北見、網走で前年を下回りました。6月は旭川、北

見、網走で1倍を下回り、この結果、全体でも3か月連続の1倍割れとなりました。7月は旭川、網走が引き続き1倍を下回ったものの、稚内、北見が1倍超えとなったことから、全体でも4か月振りに1倍超えとなりました。新規求人数は、6月、7月とも、旭川、稚内、北見、網走の全てで前年を下回り、この結果、4つの職業安定所を合計した新規求人数でも、5か月連続で前年を1割以上下回る減少となりました。

■金融動向

- 上川、宗谷、オホーツクの3総合振興局管下における金融機関貸出残高は、7月、8月とも前年を上回りました。8月まで18か月連続で前年を上回っています。

■今後のポイント

- 道北地域の日銀短観（9月調査）の事業計画では、2020年度の売上高、経常利益、当期純利益は、いずれも減少の計画（前年度比：売上高▲10.6%、経常利益▲50.6%、当期純利益▲56.1%）で、6月調査からも下方修正（修正率：売上高▲1.1%、経常利益▲3.6%、当期純利益▲0.1%）されています。この間、設備投資計画は、大幅増となった2019年度（前年度比+60.8%）の後、2020年度は慎重な計画（同▲27.7%）となっていますが、6月調査比では若干上方修正（修正率：+2.5%）されています。
- 今後、道北地域の経済を見ていく上でのポイントとしては、①経済活動の再開が次第に進む中で、観光、消費がどのようなペースで持ち直していくのかを、引き続き、注意して見て参りたいと思います。また、②再開後も当面は低水準の経済活動が続くとした場合に、雇用、所得、企業収益や設備投資計画にどのような影響が生じるか、③公共工事につい

て、人手不足の問題を抱える当地の建設業者がこれまでどおり受注を続けられるかどうか、といった面にも注意を払いたいと思います。

以 上